

はじめに

本書における「学校ボランティア」とは

現在、各地の学校で「学校支援ボランティア」としてさまざまな方が活動しています。「学校支援ボランティア」は、その活動内容から、大きく「環境支援ボランティア」と「学習支援ボランティア」に分けられます。

「環境支援ボランティア」は、子どもの登下校での安全監視、安全な生活のための校内環境整備など、学校生活全般への支援活動を行います。「学習支援ボランティア」には2つのタイプがあり、1つは、図書の読み聞かせ活動、総合的な学習の時間での体験活動のゲストティーチャーなど、授業や学習活動に中心的にかかわる支援活動を行うタイプです。これに対して、教師の指導を側面から支援するタイプがあります。授業における学習活動への補助、休み時間における活動への補助などを担います。

本書における「学校ボランティア」は、主に後者の「学習支援ボランティア」を想定しています。そして、発達障害をはじめとしたさまざまな困難さを抱える子どもにかかわることになった「学校ボランティア」の方への応援メッセージを、Q & A形式で述べました。

ぜひ教育実習生や初任の先生にも読んでほしい

本書は学校ボランティアの方への応援メッセージですが、ぜひ教育実習生や初任の先生にも読んでいただきたいのです。

近年、学校の子どもたちは、以前と比べて「多様化」してきましたと言われます。気持ちが不安定になりやすい子ども、日本語以外の言語を母語とする子ども、学習面・行動面・対人関係面で困難さを抱えている子どもたちなどが、多くのクラスで見受けられるようになりました。

そのようなクラスで、学校ボランティアとして、教育実習生や教員とし

て、子どもたちと向き合っていくためには、まず子どもたちと仲良くなって、子どもたちを知っていくことが必要です。それを通して支援を必要とする子どもに気づき、子どもが抱えている困難さに対してどのようにかわればいいのかを考えていくことになるでしょう。

そのときに求められるのが、困難さを抱えている子どもたちの特徴とともに、その子どもたちが持ちやすい、不安や、コンプレックスや、いつも失敗してしまう切なさ、くやしきなども理解していくことです。そして、子どもへのかかわり方のさまざまなレパートリーを広げることです。

これから子どもたちに出会う学校ボランティアをはじめとする皆さんにとっては、支援の必要な子どもへの気づき、理解する枠組みやかかわり方のレパートリーが必ずしも十分でないことは、むしろ当然でしょう。時には子どもたちとのかかわりに戸惑いや不安を抱えることもあるでしょう。

だからこそ、本書を通じて、子どもたちとかわる者としての心得を知っていただき、さらに子どもたちが示す様子を知り、その様子にもとづいた支援やかかわり方のレパートリーを広げていただきたいのです。

子どもたちの「できた」「わかった」という思いのために

私たち大人が子どもたちに願うこと、それは、安心・安全な学校で豊かな学校生活を送ることです。そして、日々の学習や生活において「できた」「わかった」という思いを積み重ねてくれることです。このことで、子どもたちは、「だいじょうぶ！」という気持ちになることができ、そして、「またがんばろう！」という気持ちになっていきます。私たちが教育の場において子どもたちと向き合っていく大きな目的はここにあるのです。

本書が学校ボランティアをはじめとした皆さんにとって、子どもたちと向き合うための応援メッセージとなることを願っています。

霜田 浩信